(様式第10)

富大病総第　１９１　号
令和３年１０月　７日

厚生労働大臣　　殿

国立大学法人富山大学長
開設者名　齋藤　滋

国立大学法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和2年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒930-8555　富山市五福3190
氏　　名	国立大学法人富山大学

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

国立大学法人富山大学附属病院

3　所在の場所

〒930-0194
電話 (076) 434－2281
富山市杉谷2630

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科			㊒・無
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
⑤神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績			

(注) 1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

1011　233

(2)外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科　2消化器外科　3乳腺外科　4心臓外科 5血管外科　6心臓血管外科　7内分泌外科　8小児外科	
診療実績	

(注) 1　「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に〇印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3)その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科　2小児科　3整形外科　4脳神経外科　5皮膚科　6泌尿器科　7産婦人科 8産科　9婦人科　10眼科　11耳鼻咽喉科　12放射線科　13放射線診断科 14放射線治療科　15麻酔科　16救急科

(注)　標榜している診療科名の番号に〇印を付けること。

(4)歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科　2矯正歯科　3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1　「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に〇印を付けること。

2　「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5)(1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 漢方内科	2 病理診断科	3 形成外科	4 美容外科	5 リハビリテーション科	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
43床	1床	床	床	568床	612床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　　種	常　勤	非常勤	合　計	職　　種	員　数	職　　種		員　数
医　　師	379人	18.4 人	397.4人	看護補助者	24人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	10人	11人	21 人	理学療法士	14人	臨床検査	臨床検査技師	46人
薬　剤　師	10人	3.8人	13.8人	作業療法士	7人		衛生検査技師	0人
保　健　師	人	人	人	視能訓練士	6人		そ　の　他	0人
助　産　師	42人	0人	42人	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師		0人
看　護　師	629人	5.4人	634.4人	臨床工学士	22人	医療社会事業従事者		0人
准看護師	0人	0人	0 人	栄　養　士	0人	その他の技術員		17人
歯科衛生士	2 人	1人	2.8人	歯科技工士	0人	事　務　職　員		145人
管理栄養士	8 人	0人	8人	診療放射線技師	37人	その他の職員		30人

(注) 1　報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	60 人	眼科専門医	8 人
外科専門医	27 人	耳鼻咽喉科専門医	7 人
精神科専門医	6 人	放射線科専門医	11 人
小児科専門医	19 人	脳神経外科専門医	9 人
皮膚科専門医	4 人	整形外科専門医	15 人
泌尿器科専門医	6 人	麻酔科専門医	17 人
産婦人科専門医	17 人	救急科専門医	5 人
		合　計	211 人

(注) 1　報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　林　篤志　　）　任命年月日　平成 31 年 4 月 1 日

平成 30 年 4 月 1 日から、医療安全管理委員会構成員。

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
１日当たり平均入院患者数	453.1人	9.5人	462.6人
１日当たり平均外来患者数	1199.1人	70.0人	1269.1人
１日当たり平均調剤数	365.12　剤		
必要医師数	116.6人		
必要歯科医師数	6.0人		
必要薬剤師数	16人		
必要（准）看護師数	275人		

(注)1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	459.17m²	鉄筋コンクリート	病床数	25床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	［固定式の場合］　床面積　268　m² 病床数　23床 ［移動式の場合］　台　数　台					
医薬品情報管理室	［専用室の場合］　床　積　36 m² ［共用室の場合］　共用する室名					
化学検査室	432m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）臨床検査自動化システム、血液ガス分析統合管理システムなど			
細菌検査室	96m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）細菌検査システム、マイクロスキャンWalkAway96Siリファージュなど			
病理検査室	113m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）病理診断支援システム、バーチャルスライドシステムなど			
病理解剖室	78m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）感染症対策解剖台システム、強制排気切出し台など			
研究室	7,463m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）細胞分析分取装置、電子線照射装置など			
講義室	358m²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	388人
図書室	3,285m²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	210,223冊程度

(注) 1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹　介　率	80.8%	逆　紹　介　率	68.0%
算出根拠	A：紹　介　患　者　の　数	9,883 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,092 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	917 人	
	D：初　診　の　患　者　の　数	13,361 人	

(注) 1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
森岡　浩一	福井大学医学部附属病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
木下　実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
村田 美代子	富山県立大学看護学部		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1．医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2．医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3．その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	㊒・無
委員の選定理由の公表の有無	㊒・無
公表の方法 富山大学ホームページへの掲載。	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1　承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先　進　医　療　の　種　類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	40
2	筋萎縮性側索硬化症	12	57	特発性拡張型心筋症	45
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	25
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	7	60	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	151	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	28
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	5
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	44	66	IgA 腎症	50
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	27
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	49	68	黄色靱帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	16	69	後縦靱帯骨化症	99
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	65
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	13
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除	35	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	24
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	16
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	12	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	47
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	141
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	24	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	79
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	95
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	15
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	25
34	神経線維腫症	19	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	20	90	網膜色素変性症	20
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬（汎発型）	12	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	19
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	14	95	自己免疫性肝炎	11
41	巨細胞性動脈炎	11	96	クローン病	199
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	214
43	顕微鏡的多発血管炎	23	98	好酸球性消化管疾患	3
44	多発血管炎性肉芽腫症	17	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	2	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	6	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	177	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	109	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	64	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	21	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	22	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	15	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
111	先天性ミオパチー	3	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	0
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	5
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	0
116	アトピー性脊髄炎	1	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	3	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	26	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	7	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	2	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	3
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	8
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－１－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	26

	疾　　患　　名	患者数		疾　　患　　名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	9
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0			

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・特定機能病院入院基本料（一般　7対1）	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料（精神　13対1）	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・臨床研修病院入院診療加算　基幹型	・ハイリスク妊娠管理加算
・救急医療管理加算	・ハイリスク分娩管理加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・地域連携診療計画加算
・診療録管理体制加算1	・入院時支援加算
・医師事務作業補助体制加算1（40対1）	・総合評価加算
・急性期看護補助体制加算（一般　25対1（5割以上））	・呼吸ケアチーム加算
・急性期看護補助体制加算（一般　夜間100対1）	・後発医薬品使用体制加算1
・急性期看護補助体制加算（一般　夜間看護体制加算）	・病棟薬剤業務実施加算1
・看護職員夜間12対1配置加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・看護補助加算2（精神）	・データ提出加算2
・療養環境加算	・提出データ評価加算
・重症者等療養環境特別加算	・認知症ケア加算2
・無菌治療室管理加算　1，2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・緩和ケア診療加算，個別栄養食事管理加算	・精神疾患診療体制加算
・精神科身体合併症管理加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・精神科リエゾンチーム加算	・地域医療体制確保加算
・摂食障害入院医療管理加算	・特定集中治療室管理料2
・がん拠点病院加算	・特定集中治療室管理料　小児加算
・栄養サポートチーム加算	・特定集中治療室管理料 「注4」に掲げる早期離床・リハビリテーション加算
・医療安全対策加算1	・新生児特定集中治療室管理料1
・感染防止対策加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・感染防止対策地域連携加算	・小児入院医療管理料2
・抗菌薬適正使用支援加算	・小児入院医療管理料　プレイルーム加算

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5　届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施　設　基　準　の　種　類	施　設　基　準　の　種　類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・
・歯科外来診療環境体制加算２	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料	・がん治療連携計画策定料
・植込型除細動器移行期加算	・がん治療連携管理料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・外来がん患者在宅連携指導料
・慢性維持透析患者外来医学管理料の注3に規定する腎代替療法実績加算	・肝炎インターフェロン治療計画料
・高度難聴指導管理料	・薬剤管理指導料
・糖尿病合併症管理料	・検査・画像情報提供加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料イ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料（歯科）
・がん患者指導管理料ニ	・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・外来緩和ケア管理料	・在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）
・糖尿病透析予防指導管理料	・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
・小児運動器疾患指導管理料	・横隔神経電気刺激装置加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・婦人科特定疾患治療管理料	・遺伝学的検査
・腎代替療法指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・院内トリアージ実施料	・BRCA1／2遺伝子検査
・夜間休日救急搬送医学管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・救急搬送看護体制加算	・先天性代謝異常症検査
・外来放射線照射診療料	・抗HLA抗体（スクリーニング検査）及び抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）
・ニコチン依存症管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・相談支援加算	・検体検査管理加算Ⅳ
・開放型病院共同指導料	・国際標準検査管理加算

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・遺伝カウンセリング加算	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・大腸CT撮影加算
・植込型心電図検査	・心臓MRI撮影加算
・時間内歩行試験	・乳房MRI撮影加算
・シャトルウォーキングテスト	・頭部MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・ヘッドアップティルト試験	・外来化学療法加算1
・人工膵臓検査	・連携充実加算
・皮下連続式グルコース測定	・無菌製剤処理料
・長期継続頭蓋内脳波検査	・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
・神経学的検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
・補聴器適合検査	・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
・全視野精密網膜電図	・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
・ロービジョン検査判断料	・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
・コンタクトレンズ検査料1	・がん患者リハビリテーション料
・小児食物アレルギー負荷検査	・集団コミュニケーション療法料
・内服・点滴誘発試験	・歯科口腔リハビリテーション料2
・センチネルリンパ節生検(片側)	・各リハビリテーションの初期加算
・CT透視下気管支鏡検査加算	・児童思春期精神科専門管理加算
・経気管支凍結生検法	・認知療法・認知行動療法1
・画像診断管理加算1	・精神科作業療法
・画像診断管理加算2	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・ポジトロン断層撮影（所定点数の100/100）	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・ポジトロン断層.コンピューター断層複合撮影（100/100）	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料
・CT撮影及びMRI撮影	・多血小板血漿処置

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・エタノールの局所注入（甲状腺）	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・エタノールの局所注入（副甲状腺）	・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・人工腎臓慢性維持透析を行った場合1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・導入期加算2	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・人工膵臓療法	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・一酸化窒素吸入療法	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもの）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・手術用顕微鏡加算	・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・皮膚移植術（死体）	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・組織拡張器による再建手術	・経皮的冠動脈形成術
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（同種骨移植（非生体）（同種骨移植（特殊なものに限る）））	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・経皮的冠動脈ステント留置術
・後縦靭帯骨化症手術	・胸腔鏡下弁形成術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・経カテーテル大動脈弁置換術
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下弁置換術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・経皮的僧帽弁クリップ術
・脳刺激装置植込術	・不整脈手術
・脳刺激装置交換術	・経皮的カテーテル心筋焼灼術（磁気ナビゲーション加算を算定する場合に限る）
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・羊膜移植術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・ペースメーカー移植術（リードレスペースメーカーの場合）
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）	・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）	・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの及び皮下植込型リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（その他のもの）
・下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）	・経静脈電極抜去術

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）	・尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・膀胱水圧拡張術
・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・経皮的大動脈遮断術	・膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
・ダメージコントロール手術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術	・腟腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
・腹腔鏡下胃切除術、噴門側胃切除術、胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下腟式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・胃瘻造設術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・胃瘻閉鎖術	・輸血管理料Ⅰ
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・輸血適正使用加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・体外衝撃波胆石破砕術	・コーディネート体制充実加算
・体外衝撃波膵石破砕術	・自己生体組織接着剤作成術
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・自己クリオプレシピテート作製術（用手法）
・腹腔鏡下肝切除術（（部分切除及び外側区域切除）、（亜区域切除、1区域切除（外側区域切除を除く。）、2区域切除及び3区域切除以上のもの））	・同種クリオプレシピテート作製術
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術
・結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・麻酔管理料（Ⅰ）
・同種死体腎移植術	・麻酔管理料（Ⅱ）
・生体腎移植術	・放射線治療専任加算

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・高エネルギー放射線治療の1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療（IMRT）	・
・画像誘導放射線治療（IGRT）	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・強度変調放射線治療（IMRT）の1回線量増加加算	・
・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算・その他のもの	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算２	・
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・クラウンブリッジ維持管理料	・
・CAD/CAM冠	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断科：臨床研修CPC（病理診断科主催）9回，CPC・PMC（病理学講座主催）11回，小児がんカンファレンス（小児科主催）12回 検査部：血液内科カンファレンス（週1回）、ハートチーム(TAVI)カンファレンス（週1回
剖検の状況	剖検症例数 15 例 ／ 剖検率 5.5 %

（注） 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
うつと糖尿病の悪循環を防止する嗅覚系を介した「意志力」強化機構の解明	笹岡 利安	薬学部	3,770,000	補委	日本学術振興会
稀突起膠細胞の病理から神経疾患を解明する	笹原 正清	医学部	3,380,000	補委	日本学術振興会
新敗血症定義に準拠した敗血症総合検査システム構築と国内及び東南アジアへ運用展開	北島 勲	医学部	4,030,000	補委	日本学術振興会
食道癌における血液循環癌幹細胞の免疫応答回避機構解明による転移制御法の確立	藤井 努	医学部	2,730,000	補委	日本学術振興会
AIを用いた外傷性出血部位自動検出システムの開発	吉村 裕一郎	附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
社会経済的状況による健康格差：5年間の健診ビッグデータ分析	山田 正明	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
多面的な生物学的指標を用いた精神病性障害の予後予測の試み	高橋 努	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
金ナノロッドによる放射線癌治療増強法の開発	近藤 隆	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
遺伝子ビッグデータのマシーンラーニングによる放射線感受性予測プログラムの開発	齋藤 淳一	医学部	2,340,000	補委	日本学術振興会
皮膚バリア形成におけるS100 fused-type蛋白質群の網羅的機能解析	牧野 輝彦	医学部	1,560,000	補委	日本学術振興会
太陽光誘導皮膚がんの新規治療法の開発－D-DTをターゲットとした研究－	清水 忠道	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
高脂肪食負荷による心筋障害における新規治療標的としてのM2マクロファージ	八木 邦公	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
食道原発神経内分泌癌における分子生物学的サブクラスの同定と治療標的分子の探索	奥村 知之	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
脳脊髄液動態の制御機構を解明し脳代謝産物の頭蓋外への排泄を促進させる	赤井 卓也	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
無菌性子宮内炎症を有する未破水切迫早産に対する最適な治療法の確立に関する臨床研究	米田 哲	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
水素ガス吸入による網膜虚血再灌流障害抑制効果の検討	林 篤志	医学部	1,950,000	補委	日本学術振興会
ミエロイド系細胞を介した口腔癌の浸潤促進機序の解明と新規標的化治療の開発	野口 誠	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
在宅医療と救急医療を結ぶ救急トリアージシステムの開発	若杉 雅浩	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
天然資源を用いた高齢者にやさしい生活習慣病治療薬の開発	稲寺 秀邦	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
多発性硬化症の認知機能障害に対する、経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)の開発	中辻 裕司	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
中枢性交感神経制御による慢性心不全患者QOL改善のリハビリテーションモデル構築	城宝 秀司	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
哺乳類の皮質下情動回路における運動発現機構の解明	西丸 広史	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
化学療法起因性の口内炎と口腔内細菌叢の関係を明らかにし予防方法を確立する研究	梶浦 新也	医学部	650,000	補委	日本学術振興会
新生児慢性肺疾患における細菌学的要因の特定と発症予防法の確立	吉田 丈俊	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
心筋緻密化障害の病態解明：転写因子TBX5下流経路の重要性に着目して	廣野 恵一	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会

便秘症根治を目指したTRPV4チャネルのメチル化異常の誘発と正常化因子の探索	三原　弘	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
IgG4関連呼吸器疾患におけるアレルギー性炎症の解析と新規治療法の探求	松井　祥子	保健管理センター（杉谷）	1,690,000	補委	日本学術振興会
生理学的薬物動態/薬力学モデルを応用した新たな抗MRSA薬個別化最適治療戦略	山本　善裕	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
肥満未病の鍵因子CD52による代謝疾患の予防と治療学的意義の解明	笹岡　利安	薬学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
血液循環癌幹細胞の免疫応答回避制御による新たな膵癌治療法の確立	吉岡　伊作	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
環境エンリッチメントは麻酔の質を向上させるか－扁桃体／海馬における脳科学的研究－	廣田　弘毅	医学部	910,000	補委	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症の病因に関するペリオスチンの役割の解明	川口　善治	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
軟骨再生治療への臨床応用を目指した羊膜基質コート担体の線維化抑制効果の解明と検証	野上　真紀子	附属病院	1,040,000	補委	日本学術振興会
化学療法抵抗性を有する転移性膀胱癌に対するエピジェネティックス治療確立	西山　直隆	医学部	1,170,000	補委	日本学術振興会
CpGアイランドメチル化形質陽性腎細胞がんの個別化治療開発	北村　寛	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症解明から見えた新規オートファジー抑制機構の解明,治療法の開発	中島　彰俊	附属病院	1,950,000	補委	日本学術振興会
骨髄由来免疫抑制性細胞の特性解析による口腔癌の新規免疫療法の開発	冨原　圭	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
わが国におけるVaccine Hesitancyの実態解明と対策に関する研究	種市　尋宙	附属病院	1,170,000	補委	日本学術振興会
地域在住高齢者の足趾運動の効果と転倒との関連　ロコモティブシンドロームを改善する	金森　昌彦	医学部	780,000	補委	日本学術振興会
視線解析から小児の間欠性外斜視の発症時期とその原因を明らかにする	三原　美晴	附属病院	520,000	補委	日本学術振興会
高次運動野の領域特異的な歩行制御機構の解明	中島　敏	医学部	15,210,000	補委	日本学術振興会
新規動物モデルを用いた肝細胞癌発症抑制に対する革新的糖尿病治療戦略の探索	馬場　逸人	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
臨床応用に向けた多施設データによる統合失調症前駆期における皮質下構造の特徴の解明	笹林　大樹	附属病院	910,000	補委	日本学術振興会
Oncostatin Mシグナル抑制に着目した胃がん発生メカニズムの解明	南條　宗八	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
TCHHL1を標的とした皮膚有棘細胞癌の新規治療法の開発	三澤　恵	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
エピジェネティックな機序を介したNAD代謝による脂肪細胞分化制御機構の解明	岡部　圭介	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
敗血症関連脳症におけるヒスタミンH3受容体の役割を解明し、新規治療へと展開する	服部　瑞樹	附属病院	520,000	補委	日本学術振興会
変形性脊椎症と疼痛に対する分子標的治療法の開発	牧野　紘士	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
マクロファージによる癌幹細胞数制御に着目した肥満誘発性発癌機構の解析	角　朝信	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
妊婦における麻酔不安定性メカニズムの解明および安全な麻酔法の確立	本田　康子	附属病院	1,690,000	補委	日本学術振興会
T 細胞受容体レパートリーの観点から見た妊娠と子宮悪性腫瘍の免疫学的相違	津田　さやか	附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
インターバル速歩による運動療法が、加齢黄斑変性の治療となる	上田　朋子	医学部	390,000	補委	日本学術振興会
5FU口内炎を増悪する細菌または予防する細菌の同定とそれぞれの機序の解明	元尾　伊織	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会

唾液腺再生メカニズムの解明―ハイドロゲルを用いた神経細胞培養技術構築―	池田　篤司	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
尿中ナトリウム利尿ペプチドを用いた革新的心不全ホームモニタリングシステムの開発	片岡　直也	医学部	2,600,000	補委	日本学術振興会
共生細菌の糖利用競争力を利用した耐性菌制御法の構築	森永　芳智	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
姿勢調節とリーチングに関与する高次運動野の機能局在と投射経路の解明	中島　敏	医学部	1,300,000	補委	日本学術振興会
microRNAに着目した川崎病冠動脈瘤における血管微小粒子の役割解明と新薬開発	仲岡　英幸	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
口腔癌に対するがん浸潤ミエロイド系細胞を標的とした複合免疫療法の開発	立浪　秀剛	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
IAP阻害剤による新規多発性骨髄腫治療の開発	菊地　尚平	附属病院	2,080,000	補委	日本学術振興会
大腸癌浸潤T細胞の腫瘍反応性解析による新規遺伝子改変T細胞移入療法の開発	祐川　健太	附属病院	1,300,000	補委	日本学術振興会
霊長類の脳進化を担う本能的認知機構(膝状体外視覚系)の神経生理学的特性解明	西条　寿夫	医学部	6,760,000	補委	日本学術振興会
マルチモーダル確率モデルによる若年精神疾患患者の転帰予測法の開発	鈴木　道雄	医学部	6,630,000	補委	日本学術振興会
M2マクロファージ制御による骨格筋損傷からの回復を促進する治療法の開発	戸辺　一之	医学部	12,090,000	補委	日本学術振興会
c-fos/AP-1阻害薬の疼痛制御機構とsc-RNAseq解析での椎間板再生	関　庄二	医学部	7,280,000	補委	日本学術振興会
心臓を見て聞いて感じてみよう～心臓の働きの不思議	廣野　恵一	附属病院	450,000	補委	日本学術振興会
霊長類の海馬による3次元環境内での居場所情報符号化様式の解明	田村　了以	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
Tm mapping法による肝硬変腹水中の細菌の同定･定量と自然免疫応答の解析	田尻　和人	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
化学療法誘発性末梢神経障害におけるグリア細胞を介した病態を解明し治療へと展開する	川上　正晃	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会
食成分による腸内細菌叢を介した糖代謝制御～ノトバイオートマウスを用いた研究～	藤坂　志帆	附属病院	2,210,000	補委	日本学術振興会
慢性痛下の睡眠障害に特異的な痛み関連シグナルとしてのmicroRNAの探索	竹村　佳記	医学部	1,040,000	補委	日本学術振興会
κオピオイド受容体の慢性痛による睡眠障害への関わりを探究し臨床応用する	山崎　光章	医学部	1,950,000	補委	日本学術振興会
てんかん患者における全身麻酔不安定化メカニズムの解明と安全な麻酔法の確立	佐々木　利佳	医学部	1,820,000	補委	日本学術振興会
好中球細胞外トラップを標的とした内頚動脈狭窄症不安定プラークに対する創薬	柏崎　大奈	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
リキッドバイオプシーを用いた軟部肉腫の早期転移診断･治療法の確立	鈴木　賀代	附属病院	1,820,000	補委	日本学術振興会
制御性T細胞、樹状細胞、NK細胞による母児免疫寛容誘導メカニズムの解明	島　友子	医学部	2,210,000	補委	日本学術振興会
「羊水中菌数」を新たなバイオマーカーとして早産児の後遺症なき生存を目指す治療戦略	米田　徳子	医学部	1,690,000	補委	日本学術振興会
ニューロフィードバック技術を応用した前庭リハビリテーション法の創成	高倉　大匡	附属病院	2,860,000	補委	日本学術振興会
口腔癌の免疫逃避機構の解除による新たな治療戦略に関する研究	今上　修一	附属病院	1,430,000	補委	日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害と臍帯血中ω3系脂肪酸に関するコホート内症例対照研究	濱崎　景	医学部	1,430,000	補委	日本学術振興会
インターネット等で提供される遺伝子検査ビジネスに関する消費者の評価･理解の可視化	福田　令	附属病院	780,000	補委	日本学術振興会

細胞骨格を介した細胞運動極性の制御による骨軟部肉腫の転移抑制	渡邉　健太	附属病院	1,300,000	補 委	日本学術振興会
パーソナルヘルスコード導入によるメタボリック症候群の予防と進行抑制法の開発	朴木　久恵	附属病院	2,860,000	補 委	日本学術振興会
最適な患者選択と圧設定を行った非侵襲性用圧呼吸治療が心不全患者の予後に与える影響	今村　輝彦	附属病院	3,250,000	補 委	日本学術振興会
癌幹細胞マーカーを用いた消化器癌末梢血循環癌幹細胞の同定と臨床的有用性の検討	渡辺　徹	附属病院	2,210,000	補 委	日本学術振興会
慢性痛に対するレスベラトロールの治療･予防効果に関する研究	武部　真理子	附属病院	780,000	補 委	日本学術振興会
骨修復能の「若返り」を目指した骨傷に対する新規治療戦略の創出	箭原　康人	附属病院	2,730,000	補 委	日本学術振興会
法医解剖例における心アミロイド沈着の組織学的検討と突然死リスクファクターの解析	一萬田　正二郎	医学部	1,300,000	補 委	日本学術振興会
新規NAD代謝経路の発見。老化制御と治療への展開	中川　崇	医学部	2,600,000	補 委	日本学術振興会
栄養素特異的腸内細菌制御機構と腸内細菌由来代謝産物を介した免疫･代謝ネットワークの解明	藤坂志帆	第一内科	8,919,300	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
感染菌迅速同定･定量検査創出を目指す研究	仁井見英樹	臨床分子病態検査学	21,710,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
HTLV-1の総合的な感染対策に資する研究	齋藤滋	産科婦人科学	700,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
多発性硬化症における治療選択バイオマーカーの確立	中辻裕司	脳神経内科	14,079,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
骨腫瘍切除後の再建のためのカスタムメイドインプラントの研究開発	安田剛敏	整形外科･ 運動器病学	41,602,999	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
自然免疫制御による全身性エリテマトーデス治療薬の創製	篠田晃一郎	内科学1	1,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
高病原性ウイルスパンデミックに迅速対応可能なハイスループット中和抗体検査法の開発	森永芳智	微生物学	48,100,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
軽度アルツハイマー型認知症を対象とする八味地黄丸の認知機能に対する有効性と安全性を確認する探索的オープン標準治療対照無作	貝沼茂三郎	和漢診療科	6,114,009	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(注)　1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、〇印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Ando T, Ueda A, Ogawa K, 他	第三内科	Prognosis of Immune-related Adverse Events in Patients With Advanced Gastric Cancer Treated With Nivolumab or Pembrolizumab: A Multicenter Retrospective Analysis.	10.21873/invivo.12281.	Original Article
2	Baba H*, Kanda M, Sato Y, 他	第二外科	Expression and Malignant Potential of B4GALNT4 in Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	10.1245/s10434-020-08431-8	Original Article
3	Baba H*, Tokai R, Hirano K, 他	第二外科	Risk factors for postoperative pneumonia after general and digestive surgery: a retrospective single-center study	10.1007/s00595-019-01911-9	Original Article
4	Fukizawa S, Yamashita M, Fujisaka S, 他	第一内科	Isoxanthohumol, a hop-derived flavonoid, alters the metabolomics profile of mouse feces.	10.12938/bmfh.2019-045	Original Article
5	Fukizawa S, Yamashita M, Wakabayashi KI, 他	第一内科	Anti-obesity effect of a hop-derived prenylflavonoid isoxanthohumol in a high-fat diet-induced obese mouse model	10.12938/bmfh.2019-040	Original Article
6	Fukushima M, Yunoki T, Otsuka M, 他	眼科	Association of Deepening of the Upper Eyelid Sulcus with the Incidence of Blepharoptosis after Glaucoma Filtration Surgery.	10.1080/08820538.2020.1863435	Original Article
7	Furukawa F, Mizawa M, Shimizu T.	皮膚科	Treatment of dermatosis papulosa nigra using a carbon dioxide laser.	10.1111/jocd.13309	Original Article
8	Hamashima T, Ishii Y, Nguyen QL, 他	病態・病理学	Oligodendrogenesis and Myelin Formation in the Forebrain Require Platelet-derived Growth Factor Receptor-alpha.	10.1016/j.neuroscience.2020.04.001	Original Article
9	Hirono K, Hata Y, Miyao N, 他	小児科	Increased burden of ion channel gene variants is related to distinct phenotypes in pediatric patients with left ventricular noncompaction.	10.1161/CIRCGEN.119.002940.	Original Article
10	Hirono K, Miyao N, Yoshinaga M, 他	小児科	A significance of school screening electrocardiogram in the patients with ventricular noncompaction.	10.1007/s00380-020-01571-7.	Original Article
11	Homma T, Ojima T, Shimada Y, 他	第一外科	Use of Quickfix for tape fixation of chest tubes: a multi-center doctor-nurse questionnaire survey and fixing strength comparison study.	10.21037/jtd.2019.12.132.	Original Article
12	Homma T, Ojima T, Shimada Y, 他	第一外科	Utility of the sliding lung sign for the prediction of preoperative intrathoracic adhesions.	10.21037/jtd-20-886.	Original Article
13	Imamura T, Combs P, Siddiqi U, 他	第二内科	Sex difference in the impact of smoking on left ventricular assist device outcomes.	10.1111/jocs.14921	Original Article
14	Imamura T, Combs P, Siddiqi U, 他	第二内科	Winter LVAD implantation is associated with adverse clinical outcomes.	10.1177/0391398820951810	Original Article

15	Imamura T, Combs P, Siddiqi U, 他	第二内科	Perioperative improvement in serum albumin level in patinets with left ventricular assist device.	10.1111/jocs.14995.	Original Article
16	Imamura T, Kinugawa K, Ono M, 他	第二内科	Bridge-to-Bridge Left Ventricular Assist Device Implantation Strategy vs. Primary Left Ventricular Assist Device Implantation Strategy	10.1253/circj.CJ-20-0840	Original Article
17	Imamura T, Mehta P, Nguyen A, 他	第二内科	Neurohormonal Blockade During Left Ventricular Assist Device Support.	10.1097/MAT.0000000000001104.	Original Article
18	Imamura T, Nakamura M, Yokoyama S, 他	第二内科	Angiopoietin-2 and hemocompatibility-related adverce events during percutaneous left ventricular assist device supports	10.1002/hsr2.211.	Original Article
19	Imamura T, Narang N, Combs P, 他	第二内科	Impact of plasma volume status on mortality following left ventricular assist device implantation.	10.1111/aor.13878	Original Article
20	Imamura T, Narang N, Kim G, 他	第二内科	Aortic Insufficiency during HeartMate 3 Left Ventricular Assist Device Support.	10.1016/j.cardfail.2020.05.013.	Original Article
21	Imamura T, Narang N, Kim G, 他	第二内科	Decoupling Between Diastolic Pulmonary Artery and Pulmonary Capillary Wedge Pressures Is Associated With Right Ventricular Dysfunction and Hemocompatibility-Related Adverse Events in	10.1161/JAHA.119.014801.	Original Article
22	Imamura T, Narang N, Nitta D, 他	第二内科	HeartWare Ventricular Assist Device Cannula Position and Hemocompatibility-related Adverse Events.	10.1016/j.athoracsur.2019.12.049.	Original Article
23	Imamura T, Narang N, Nitta D, 他	第二内科	Optimal Cannula Positioning of HeartMate 3 Left Ventricular Assist Device.	10.1111/aor.13755	Original Article
24	Imamura T, Narang N, Rodgers D, 他	第二内科	HVAD Flow Waveform Estimates Left Ventricular Filling Pressure.	10.1016/j.cardfail.2020.01.012.	Original Article
25	Imamura T, Nitta D, Fujino T, 他	第二内科	Deep Y-Descent in Right Atrial Waveforms following Left Ventricular Assist Device Implantation.	10.1016/j.cardfail.2020.01.004.	Original Article
26	Inomata M, Hirai T, Takata N, 他	第一内科	Relationship between Patient Characteristics and the Timing of Provision of Explanation about DNAR to Patients with Advanced Lung Cancer.	10.2169/internalmedicine.4704-20	Original Article
27	Ishikawa A, Wada T, Nishimura S, 他	病態･病理学	Estrogen regulates sex-specific localization of regulatory T cells in adipose tissue of obese female mice.	10.1371/journal.pone.0230885. eCollection 2020.	Original Article
28	Itazawa T, Kanatani KT, Hamazaki K, 他	小児科	The impact of exposure to desert dust on infants' symptoms and countermeasures to reduce the effects.	10.1111/all.14166.	Original Article
29	Ito M, Yoshino O, Ono Y, 他	産科婦人科	Bone morphogenetic protein-2 enhances gonadotropin-independent follicular development via sphingosine kinase 1	10.1111/aji.13374	Original Article
30	Kaku Kuroda,Taro Miura,Shota Kuroiwa,他	総合診療科	What are the factors that cause emergency home visit in home medical care in japan.	10.1002/jgf2.389	Original Article
31	Kashiwazaki D, Maruyama K, Yamamoto S, 他	脳神経外科	Unstable carotid plaque as a phenotype of chronic systemic inflammation enhances renal insufficiency.	10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2020.104698. Epub 2020 Feb 21	Original Article

32	Kashiwazaki D, Yamamoto S, Akioka N, 他	放射線診断･治療学	High-intensity vessel sign on fluid-attenuated inversion recovery imaging: a novel imaging marker of high-risk carotid stenosis-a MRI and SPECT study.	10.1007/s00701-020-04408-4.	Original Article
33	Kato H, Kushima I, Mori D, 他	神経精神科	Rare genetic variants in the gene encoding histone lysine demethylase 4C (KDM4C) and their contributions to susceptibility to schizophrenia and autism spectrum disorder	10.1038/s41398-020-01107-7	Original Article
34	Kato A, Nakagome I, Hata M, 他	薬剤部	Strategy for designing selective lysosomal acid a-glucosidase inhibitors : binding orientation and influence on selectivity.	10.3390/molecules25122843	Original Article
35	Kawasuji H, Sakamaki I, Kawamura T, 他	感染症科	Proactive Infectious Disease Consultation at the Time of Blood Culture Collection Is Associated With Decreased Mortality in Patients With Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Bacteremia: A Retrospective Cohort Study.	10.1016/j.jiac.2020.01.017.	Original Article
36	Kawasuji H, Takegoshi Y, Kaneda M, 他	感染症科	Transmissibility of COVID-19 depends on the viral load around onset in adult and symptomatic patients. 2020 Dec 9;15(12):e0243597. doi:.	10.1371/journal.pone.0243597	Original Article
37	Kobayashi S, Tajiri K, Murayama A, 他	第三内科	Drug-eluting Bead-Transcatheter Arterial Chemoembolization for Advanced Hepatocellular Carcinoma Refractory to Conventional Lipiodol-based Transcatheter Arterial Chemoembolization	10.2147/JHC.S273929	Original Article
38	kuroda S, Nakayama N, Yamamoto S, 他	脳神経外科	Late (5-20 years) outcomes after STA-MCA anastomosis and encephalo-duro-myo-arterio-pericranial synangiosis in patients with moyamoya disease.	0.3171/2019.12.JNS192938.	Original Article
39	Kuwahara H*, Imamura T, Sobajima M, 他	第二内科	Regulation and Clinical Implication of Arginine Vasopressin in Patients with Severe Aortic Stenosis Referred to Trans-Catheter Aortic Valve Implantation.	10.3390/medicina56040165.	Original Article
40	Makino T, Mizawa M, Yoshihisa Y, 他	皮膚科	Trichohyalin-like 1 protein plays a crucial role in proliferation and anti-apoptosis of normal human keratinocytes and squamous cell carcinoma cells.	10.1038/s41420-020-00344-5	Original Article
41	Mihara H, Murayama A, Nanjo S, 他	第三内科	Factors correlated with drug use for constipation: perspectives from the 2016 open Japanese National Database	10.1186/s12876-020-01425-6	Original Article
42	Miyao N, Hata Y, Izumi H, 他	周産母子センター	TBX5 R264K acts as a modifier to develop dilated cardiomyopathy in mice independently of T-box pathway.	10.1371/journal.pone.0227393.	Original Article
43	Morita K*, Tsuda S, Kobayashi E, 他	産科婦人科	Analysis of TCR repertoire and PD-1 expression in decidual and peripheral CD8+ T cells reveals distinct immune mechanisms in miscarriage and preeclampsia	10.3389/fimmu.2020.01082.	Original Article
44	Nakamura M, Imamura T	第二内科	Practical Management of ECPELLA	10.1536/ihj.20-172	Original Article
45	Nakamura M, Imamura T, Fukui T, 他	第二内科	Impact of the angle between aortic and mitral annulus on the occurrence of hemolysis during Impella support	10.1007/s10047-020-01172-1	Original Article
46	Nakamura M, Imamura T, Hori M, 他	第二内科	Regulation of Angiopoietin-2 Before and After Mechanical Circulatory Support Therapy	10.1097/MAT.0000000000001189.	Original Article
47	Nakamura M, Imamura T, Hori M, 他	第二内科	Initial Experience With Tafamidis Treatment for Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy	10.1253/circrep.CR-20-0062	Original Article

48	Nakamura M, Imamura T.	第二内科	Implication of Impella 5.0 therapy as a bridge tool from VA-ECMO to durable LVAD therapy	10.1016/j.jcrc.2020.06.010	Original Article
49	Nakaoka H, Tsuda E, Morita Y, 他	周産母子センター	Cardiac Function by Magnetic Resonance Imaging in Coronary Artery Occlusions After Kawasaki Disease.	10.1253/circj.CJ-19-0511.	Original Article
50	Nghia Trong Nguyen＊, Hiromasa Takakura, Hisao Nishijo, 他	耳鼻咽喉科	Cerebral Hemodynamic Responses to the Sensory Conflict Between Visual and Rotary Vestibular Stimuli: An Analysis With a Multichannel Near-Infrared Spectroscopy (NIRS) System.	10.338900000000001	Original Article
51	Oba J*, Okabe M, Yoshida T, 他	危機管理医学	Hyperdry human amniotic membrane application as a wound dressing for a full-thickness skin excision after a third-degree burn injury.	10.1093/burnst/tkaa014	Original Article
52	Okabe K, Nawaz A, Nishida Y, 他	第一内科	NAD+ Metabolism Regulates Preadipocyte Differentiation by Enhancing α-Ketoglutarate-Mediated Histone H3K9 Demethylation at the PPARγ Promoter	10.3389/fcell.2020.586179	Original Article
53	Otsuka M, Hayashi A, Tojo N.	眼科	Questionnaire survery on complications during 24-h measurement of intraocular pressure-related patterns with a contact lens sensor.	10.1007/s10792-020-01370-z. Epub 2020 Apr 20.	Original Article
54	Sakumura M, Ando T, Hosokawa A, 他	第三内科	Small intestinal mucosal injury and its risk factors in patients with gastrointestinal cancer who developed complicated fluoropyrimidine-induced diarrhea	10.1186/s12876-020-01507-5	Original Article
55	Sasabayashi D, Takayanagi Y, Takahashi T, 他	神経精神科	Subcortical brain volume abnormalities in individuals with an at-risk mental state.	10.1093/schbul/sbaa011	Original Article
56	Shima T, Nakashima A, Yasuda I, 他	産科婦人科	Uterine CD11c+ cells induce the development of paternal antigen-specific Tregs via seminal plasma priming	10.1016/j.jri.2020.103165.	Original Article
57	Sobajima M, Imamura T, Onoda H, 他	第二内科	B-type Natriuretic Peptide Regulation in Patients with Severe Aortic Stenosis Following Transaortic Valvular Implantation.	10.1536/ihj.20-067	Original Article
58	Takahashi T, Kido M, Sasabayashi D, 他	神経精神科	Gray matter changes in the insular cortex during the course of the schizophrenia spectrum	10.3389/fpsyt.2020.00659	Original Article
59	Takahashi T, Sasabayashi D, Yücel M, 他	神経精神科	Pineal gland volume in major depressive and bipolar disorders	10.3389/fpsyt.2020.00450	Original Article
60	Takahashi T, Tsugawa S, Nakajima S,他	放射線診断･治療学	Thalamic and striato-pallidal volumes in schizophrenia patients and individuals at risk for psychosis: A multi-atlas segmentation study.	10.1016/j.schres.2020.04.016.	Original Article
61	Takeuchi M, Kobayashi T, Biss T, 他	小児科	CYP2C9, VKORC1, and CYP4F2 polymorphisms and pediatric warfarin maintenance dose: a systematic review and meta-analysis.	10.1038/s41397-019-0117-x.	Original Article
62	Tamura K, Williams EE, Dassios T, 他	周産母子センター	End-tidal carbon dioxide levels during resuscitation and carbon dioxide levels in the immediate neonatal period and intraventricular haemorrhage.	10.1007/s00431-019-03543-0.	Original Article
63	Tojo N , Otsuka M, Hayashi A.	眼科	Comparison of trabectome and microhook surgical outcomes.	10.1007/s10792-020-01548-5	Original Article

64	Tojo N, Hayashi A	眼科	Can a contact lens sensor predict the success of trabectome surgery?	10.1007/s00417-019-04576-9. Epub 2020 Jan 3.	Original Article
65	Tojo N, Hayashi A.	眼科	The Outcomes of Trabectome Surgery in Patients with Low, Middle, and High Preoperative Intraocular Pressure.	10.2147/OPTH.S285883. eCollection 2020.	Original Article
66	Tojo N, Hayashi A.	眼科	The results of Baerveldt glaucoma implant surgery performed with the scleral flap and patch technique.	10.1177/1120672120946279	Original Article
67	Tojo N, Numata A, Hayashi A.	眼科	Factors influencing the reduction in corneal endothelial cells after Ex-Press ® surgery.	10.1007/s10792-020-01286-8. Epub 2020 Jan 13.	Original Article
68	Yahara Y, Barrientos T, Tang Y J, 他	整形外科	Erythromyeloid progenitors give rise to a population of osteoclasts that contribute to bone homeostasis and repair.	10.1038/s41556-019-0437-8. Epub 2020 Jan 6.	Original Article
69	Yahara Y, Yasuda T, Kawaguchi Y, 他	整形外科	Sacroiliac joint variation associated with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis.	10.1186/s12891-020-3105-z.	Original Article
70	Yamamoto S＊, Kashiwazaki D, Uchino H, 他	脳神経外科	Clinical and Radiological Features of Childhood Onset Adult Moyamoya Disease: Implication for Hemorrhagic Stroke.	10.2176/nmc.oa.2020-0001. Epub 2020 Jun 12.	Original Article
71	Yamazaki H, Yunoki T, Tojo N, 他	眼科	Effectiveness of Blepharoptosis Surgery in Patients With Deepening of the Upper Eyelid Sulcus.	10.1097/SCS.0000000000006485.	Original Article
72	Yasuda I, Kobayashi S, Takahashi K, 他	第三内科	Management of remnant or recurrent lesions after endoscopic papillectomy.	10.5946/ce.2019.171. Epub 2019 Dec 3.	Original Article
73	Yasuda I, Shima T, Moriya T, 他	産科婦人科	Dynamic Changes in the Phenotype of Dendritic Cells in the Uterus and Uterine Draining Lymph Nodes After Coitus	10.3389/fimmu.2020.557720.	Original Article
74	Yoshida T, Hiraiwa A, Ibuki K, 他	周産母子センター	Neurodevelopmental outcomes at 3 years for infants with congenital heart disease and very-low birthweight	10.1111/ped.14160.	Original Article
75	Yoshihisa Y, Andoh T, Rehman MU,他	皮膚科	The regulation of protein kinase casein kinase II by apigenin is involved in the inhibition of ultraviolet B-induced macrophage migration inhibitory factor-mediated hyperpigmentation.	10.1002/ptr.6597	Original Article
76	Akai T, Maruyama K, Takakura H, 他	脳神経外科	Safety management in urgent endonasal trans-sphenoidal surgery for pituitary adenoma during the COVID-19 pandemic in Japan.	10.1016/j.inat.2020.100820. Epub 2020 Jul 10.	Case report
77	Anada R, Hayashi T, Yamamoto M, 他	脳神経内科	The Spinal Cord Uptake of Fluorodeoxyglucose in a Patient with Relapsing Polychondritis	10.2169/internalmedicine.3660-19.	Case report
78	Fujioka H, Imamura T, Kinugawa K.	第二内科	Acute acalculous cholecystitis in a very elderly peritoneal dialysis patient	10.1111/1744-9987.13583.	Case report
79	Fujioka H, Koike T, Imamura T, 他	第二内科	Mucoepidermoid carcinoma of parotid gland and membranous nephropathy - differentiation between sclerosing mucoepidermoid carcinoma with eosinophilia and Kimura's disease	10.1186/s12882-020-02030-1.	Case report
80	Hirohiko Tachino, Hiromasa Takakura, Hideo Shojaku , 他	耳鼻咽喉科	Lacrimal Drainage System Obstruction Following Inferior Turbinate Surgery.	10.3389/fsurg.2020.590988. eCollection 2020.	Case report

81	Hirohiko Tachino, Hiromasa Takakura, Hideo Shojaku, 他	耳鼻咽喉科	Response to Intra-arterial Cisplatin and Concurrent Radiotherapy Followed by Salvage Surgery in a Patient with Advanced Primary Sinonasal Low-Grade Non-intestinal Adenocarcinoma.	https://doi.org/10.3389/fsurg.2020.599392	Case report
82	Hiromasa Takakura, Takeru Hamashima, Hirohiko Tachino, 他	耳鼻咽喉科	Clinicopathological Features of Thyroid-Like Low-Grade Nasopharyngeal Papillary Adenocarcinoma: A Case Report and Review of the Literature.	10.3389/fsurg.2020.596796. eCollection 2020	Case report
83	Hori M*, Imamura T, Nakamura M, 他	第二内科	Implication of ivabradine in up-titrating beta-blocker in a patient with advanced heart failure.	10.2169/internalmedicine.6061-20	Case report
84	Kagoyama K, Makino T, Minamisaka T, 他	皮膚科	Intravascular myopericytoma on the right dorsal foot	10.1684/eid.2020.3906	Case report
85	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, 他	透析部	Cholesterol embolization syndrome and intra-abdominal bleeding immediately after initiation of hemodialysis: a case report with literature review	10.1186/s41100-020-00305-9	Case report
86	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, 他	透析部	Expression of aquaporin-2 in the collecting duct and responses to tolvaptan	10.1007/s13730-020-00518-1	Case report
87	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, 他	透析部	Nephrotic Syndrome with Focal Segmental Glomerulosclerosis Induced by Intravitreal Injections of Vascular Endothelial Growth Factor Inhibitor	10.2169/internalmedicine.5410-20	Case report
88	Kakeshita K, Koike T, Imamura T, 他	透析部	IgA Nephropathy with Dominant IgA2 Deposition Accompanied by Mantle Cell Lymphoma	10.2169/internalmedicine.6099-20	Case report
89	Keiichiro Kita.	総合診療科	A Case of an Urachal Remnant Abscess without Omphalitis.	10.2169/internalmedicine.5999-20	Case report
90	Kobayashi S, Kakeshita K, Imamura T, 他	第二内科	Clinical Implications of Steroid Therapy for Crescentic Glomerulonephritis and Gemella morbillorum-associated Infective Endocarditis	10.2169/internalmedicine.5319-20	Case report
91	Makino T, Matsui Y, Torai R, 他	皮膚科	Agminated flexural melanocytic nevus associated with Langerhans cell histiocytosis.	10.1111/1346-8138.15391	Case report
92	Motoo I, Ando T, Mihara H, 他	第三内科	Endoscopic Ultrasound-guided Fine Needle Aspiration for the Diagnosis of Duodenal Stenosis Due to Urothelial Carcinoma.	10.2169/internalmedicine.5685-20	Case report
93	Nakamura M, Imamura T, Hori M, 他	第二内科	Usefulness of HVAD Waveforms as Diagnostic assistance for Cardac tamponade	10.1097/MAT.0000000000001303	Case report
94	Nakamura M, Imamura T, Kuwahara H, 他	第二内科	Paracorporeal Ventricular Assist Device Implantation in a Patient with Transposition of the Great Arteries After Senning Operation	10.1536/ihj.19-670	Case report
95	Nishiyama N, Ikehata Y, Okuno N, 他	腎泌尿器科	A rare case of synchronous bilateral epididymal and testicular metastases of urothelial carcinoma of the bladder after intravesical bacillus Calmette-Guérin	10.1007/s13691-020-00448-w	Case report
96	Reina Tsuda , Koichiro Shinoda, Ryuichi Ushijima, 他	第一内科	A case of wild-type transthyretin cardiac amyloidosis with rheumatoid arthritis	10.1080/24725625.2020.1864104	Case report

97	Ryoko Asano, Koichiro Shinoda, Reina Tsuda, 他	第一内科	Anti-TIF1γ antibody-positive dermatomyositis in a 15-year-old boy with Epstein-Barr virus-related nasopharyngeal cancer receiving nivolumab	10.1093/rheumatology/keaa832	Case report
98	Sakamaki I, Morinaga Y, Tani H, 他	感染症科	Monitoring of viral load by RT-PCR caused decision making to continue ECMO therapy for a patient with COVID-19.	10.1016/j.jiac.2020.08.014.	Case report
99	Sobajima M, Fukuda N, Ueno H, 他	第二内科	A case report of advanced heart failure refractory to pharmacological therapy who was successfully recovered by combinatory usage of cardiac resynchronizing therapy, Impella and MitraClip	10.1093/ehjcr/ytaa418.	Case report
100	Tachino H, Takakura H, Shojaku H, 他	放射線診断･治療学	Case Report: Response to Intra-arterial Cisplatin and Concurrent Radiotherapy Followed by Salvage Surgery in a Patient With Advanced Primary Sinonasal Low-Grade Non-intestinal Adenocarcinoma.	10.3389/fsurg.2020.599392.	Case report
101	Tanaka S, Imamura T, Ueno H, 他	第二内科	MitraClip or Ventricular Assist Device?	10.1536/ihj.20-333	Case report
102	Toshio Doi, Daisuke Toritsuka, Akihiko Higashida, 他	第一外科	Concomitant septal myectomy and mitral valve repair in a child with Noonan syndrome	10.1002/ccr3.3531	Case report
103	Yahara Y, Niimi H, Sugie N, 他	整形外科	Progressive paravertebral ligament ossification and pseudoarthrosis in the thoracic spine due to loss of function of the PHEX gene in a patient with X-oinked hypophosphatemic rickets.	S0949-2658(20)30182-2.	Case report
104	Fujisaka Shiho	第一内科	The role of adipose tissue M1/M2 macrophages in type 2 diabetes mellitus	doi.org/10.1007/s13340-020-00482-2	Review
105	Hayashi R	臨床腫瘍部	Therapeutic strategy for non-small cell lung cancer in the next-generation sequencing era	10.1016/j.resinv.2020.10.004	Review
106	Imamura T, Narang N.	第二内科	Advances in Hemodynamic Monitoring in Heart Failure Patients.	10.2169/internalmedicine.4615-20	Review
107	Irisawa A, Furuta T, Matsumoto T, 他	光学医療診療	Gastrointestinal endoscopy in the era of the acute pandemic of COVID-19: Recommendations by Japan Gastroenterological Endoscopy Society	10.1111/den.13703	Review
108	Nakamura M, Imamura T.	第二内科	Practical Management of ECPELLA.	10.1536/ihj.20-172.	Review
109	Nakashima A, Shima T, Aoki A, 他	産科婦人科	Placental autophagy failure: A risk factor for preeclampsia.	10.1111/jog.14489.	Review
110	Nakashima A, Shima T, Tsuda S, 他	産科婦人科	Disruption of placental homeostasis leads to preeclampsia.	10.3390/ijms21093298.	Review
111	Naoki Yoshimura, Kazuaki Fukahara, Akio Yamashita, 他	第一外科	Congenital vascular ring	10.1007/s00595-019-01907-5	Review
112	Ueno H, Imamura T, Kinugawa K.	第二内科	Update of Patient Selection and Therapeutic Strategy using MitraClip.	10.1536/ihj.20-013.	Review

113	Yasuda I, Kobayashi S, Takahashi K, 他	第三内科	Management of Remnant or Recurrent Lesions after Endoscopic Papillectomy	10.5946/ce.2019.171	Review
114	Yasuda I, Takahashi K	第三内科	Endoscopic management of walled-off pancreatic necrosis	10.1111/den.13699	Review
115	Sakurai K, Nakamori K, Yamazaki M, 他	歯科口腔外科	Response to Letter to the Editor "Ectomesenchymal chondromyxoid tumour on the lateral border of the tongue: some historical and clinical considerations"	10.1016/j.ijom.2020.11.026	Case report
116	Ito H, Takemura Y, Aoki Y,他	麻酔科	Analysis of the effects of a tricyclic antidepressant on secondary sleep disturbance induced by chronic pain in a preclinical model	10.1371/journal.pone.0243325	Original Article

計116件

(注) 1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例:　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					riginal Article
2					Case report
3					
～					

計　件

(注) 1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

別紙１「令和２年度富山大学附属病院専門研修プログラム登録名簿」を参照。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	50人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
戸邉　一之	内科	第一内科診療部門長	37年	
足立　雄一	小児科	小児科診療部門長	38年	
清水　忠道	皮膚科	皮膚科長	34年	
鈴木　道雄	精神科	精神科長	34年	
芳村　直樹	外科	第一外科診療部門長	33年	
川口　善治	整形外科	整形外科長	32年	
中島　彰俊	産科婦人科	産科婦人科長	21年	
林　篤志	眼科	眼科長	32年	
將積　日出夫	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科長	38年	
北村　寛	泌尿器科	泌尿器科長	26年	
黒田　敏	脳神経外科	脳神経外科診療部門長	34年	
野口　京	放射線科	放射線科診療部門長	29年	
山崎　光章	麻酔科	麻酔科長	38年	
仁井見　英樹	検査・輸血細胞治療部	検査・輸血細胞治療部長	22年	
井村　穣二	病理部	病理部長	38年	
奥寺　敬	救急科	災害・救命センター長	39年	
山城　清二	総合診療部	総合診療部長	36年	
野口　誠	歯科口腔外科	歯科口腔外科長	37年	
服部　憲明	リハビリテーション科	リハビリテーション科長	27年	
佐武　利彦	形成再建外科・美容外科	形成再建外科・美容外科長	31年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
１）・研修の主な内容 新人病院職員を対象に「保険診療とＤＰＣ」と題し研修を実施。保険医療機関及びＤＰＣ病院並びに大学病院の職員としての使命感等を認識し、業務への理解を深めることを目的として実施。 ・研修の期間・実施回数 令和2年4月1日　ビデオ講習 ・研修の参加人数 140名 ２）・研修の主な内容 「保険診療の理解のために」と題し保険診療にかかる研修会を実施。保険診療への理解を深め、保険診療の質的向上と適正化に努めることを目的とする。 ・研修の期間・実施回数 令和3年3月16日～令和3年3月31日　ｅ-ラーニング 令和3年3月24日　ビデオ講習 ・研修の参加人数 79名

③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。
(注) 2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	１．計画　　②．現状
管理責任者氏名	林　篤志
管理担当者氏名	副病院長（診療担当）絹川弘一郎、薬剤部長　加藤敦、医事課長　杉本祐文 放射線科長　野口京、看護部長　　丸池小百合、病院総務課長　西川幹郎

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課	カルテ等（電子カルテを含む。）の病歴資料は、１患者１ファイル方式による永久一元番号で分類し、外来カルテは最終受診日から５年以上、入院カルテは退院日から１０年以上の保存を原則としている。また、電子カルテ情報は、持ち出しが必要な場合は、診療情報管理部で所定の様式に記載していただいた後、担当の方で処理をして、持ち出しの記録を明確にして管理している。
		各科診療日誌	看護部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医薬系総務課人事･職員支援チーム	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院総務課	
		高度の医療の研修の実績	病院総務課臨床研修チーム	
		閲覧実績	病院総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課医療安全	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課医療安全	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課医療安全	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事課医療安全	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課医療安全	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医事課医療安全	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課医療安全	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課医療安全	
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全	
		監査委員会の設置状況	医事課医療安全	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課医療安全	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	病院総務課	
		職員研修の実施状況	医事課医療安全	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課医療安全	
		管理者が有する権限に関する状況	病院総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・広報課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・広報課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　(2.) 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部病院総務課長　西川　幹郎	
閲覧担当者氏名	病院事務部病院総務課長補佐　竹腰　貢三子	
閲覧の求めに応じる場所	病院事務部病院総務課	
閲覧の手続の概要 原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わす。また、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときには、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等を講ずる。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0件
閲覧者別	医師	延　0件
	歯科医師	延　0件
	国	延　0件
	地方公共団体	延　0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： 1．病院における安全管理に関する基本的考え方 2．医療安全の組織と体制に関する基本的事項 3．安全管理に係る研修に関する基本方針 4．医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5．医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6．医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針 7．患者等からの相談への対応に関する基本方針 8．その他医療安全の推進のための必要な基本方針	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（　有　） ・　開催状況：年　16　回 ・　活動の主な内容： 1．病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。 2．1号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。 3．2号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。 4．入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理室への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 5．入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の事実及び発生前の状況の医療安全管理室への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。 6．4.5号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員へ研修及び指導に関すること。 7．その他医療安全管理、医療の質の向上及び医療事故に関すること。	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
・　研修の内容（すべて）： 1．新人病院職員研修 2．医療安全管理等研修会 3．医療安全講習会「医薬品・医療機器・医療安全に関する講習会」 4．医療安全講習会「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく医療安全への統合的アプローチ：safety-Ⅱ」 5．医療安全講習会「サイバー犯罪防止の取り組みについて」 6．医療安全講習会「各部署の医療安全活動報告会」	
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機関内における事故報告等の整備　（　有　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ・コアメンバーミーティング(１回/週)では、週報をもとに事例の確認および対策の検討等を行う。	

・医療安全管理室ミーティング(２回/月)では、重要事例や警鐘事例について、 対策およびその周知方法等について検討する。 ・重大事例や警鐘事例については、特別事例検討会・医療事故調査委員会等を 通して、対策およびその周知方法等について検討する。

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	有
・ 指針の主な内容： 1. 病院における感染対策に関する基本的な考えかた 2. 感染対策の組織と体制に関する基本的事項 3. 感染対策に係る研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針 7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・　活動の主な内容： 1. 感染予防対策の確立に関すること。 2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。 4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。 5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。 6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。 7. その他感染予防に関すること。	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
・　研修の内容（すべて）： 1.新人病院職員研修 2.医療安全管理等研修会 3.院内感染対策講習会「感染制御の重要性 ～新型コロナウイルス感染症対策を中心に～」 4.院内感染対策講習会「感染制御と抗菌薬適正使用の重要性 ～当院の現状と課題～」	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・　病院における発生状況の報告等の整備　　（　有　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： ○新型コロナ対策として、以下を実施した。 ・トリアージ、発熱外来の設置 ・職員への感染対策の周知・個人防護具着脱訓練 ・陽性患者対応部署（病棟・ECU・外来・手術部・放射線部・産婦人科）のマニュアル作成と職員対象のシミュレーション訓練 ・感染対策物品の管理・運用 ・職員対象ワクチン接種の計画・運営 ○耐性菌のコントロールを目標に、各部署の患者1人当たり／日の手指衛生目標回数を設定し強化し、患者1人当たり手指消毒回数が増加した。 10.1回（R1）⇒13.3回（R2） 黄色ブドウ球菌のMRSA率が低下した。25.9%（R1）⇒25.2%（R2） ○抗菌薬適正使用の支援を実施し、カルバペネム抗菌薬使用量（AUD）が減少した。 13.46（R1）⇒10.76（R2） しかし、タゾピペ使用量（AUD）は増加した。 24.65（R1）⇒27.18（R2） ○血液体液粘膜曝露事故対策として、アイシールドの推進を行い事例件数が減少した。 16件（R1）⇒7件（R2）	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	有
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・　研修の主な内容： ○医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項 ○医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 ○医薬品による副作用等が発生した場合の対応（病院内での報告，行政機関への報告等）に関する事項 ○麻薬事故発生時の対応（保存方法及び報告等のルール）に関する事項	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　　（　有　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を，医療安全管理委員会の議を経て作成。 ○実施状況を部署責任者の協力を得て定期的に「医薬品業務確認リスト」に基づき確認。 ○確認結果を，医療安全管理委員会の議を経て，病院長に報告。	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　　（　有　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ○使用事例なし ・　その他の改善のための方策の主な内容： ○薬剤部医薬品情報室の機能を駆使して，医薬品の添付文書の情報のほか，医薬品製造販売業者，行政機関及び学術誌等からの情報を広く収集・管理する。 ○得られた情報のうち必要なものを当該情報に係る医薬品を取り扱う病院従業者に，迅速かつ確実に周知徹底を行った後、全職員に対し情報の周知を行い、確認報告書を記載・提出させる。 ○病院内に新たに臨床倫理委員会を設置し、薬剤部及び臨床研究管理センターと連携し未承認薬（未承認新規薬剤を除く）、適応外・禁忌使用薬剤及び院内製剤についての申請及び審査機能を強化し情報の共有を行う。	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の11第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	有
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
・　研修の主な内容： ○有効性・安全性に関すること ○使用方法に関すること ○保守点検に関すること ○不具合発生への対応に関すること ○使用に関して特に法令上遵守すべきことに関すること	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　　（　有　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： ○日常点検 ○使用後点検 ○定期点検	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　　（　有　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ○使用事例は無 ・　その他の改善のための方策の主な内容： ○新規導入の機器や更新機器は、年１回、各診療科等に導入希望調査が行われ、年度導入計画書が作成される。その他臨時導入要求も含め、病院執行部会議で審議、病院運営会議で最終決定され、院内に周知されている。 ○病院内で使用する医療機器の購入やリース開始時に、経理調達課と協力し、納入業者より事前に機器情報等の収集を行い、機器登録を行ったうえで使用場所へ納品する。この流れの中で医療機器管理センターから導入時研修の必要性の有無確認や開催に繋げている。 ○修理・点検は、検査部、放射線部を除き、全ての修理依頼を医療機器管理センターで対応（検査部及び放射線部については、重要な異常発生時には同センターに連絡が入るようになっている。）しており、医療機器は、同センターが把握するよう努めている。 ○使用状況については、院内ラウンド時に把握するよう努めている。	

(注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 〇平成28年7月20日に医療安全管理指針を改正し、医療安全管理責任者を配置した。医療安全管理責者は、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括することを定めた。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 3 名）
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 （1）医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び見直し （2）医薬品の業務手順に基づく業務の実施・確認 （3）病院従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施 （4）医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集、その他医薬品の安全確保を目的とした改善のための方策の実施 （5）医薬品の安全使用のための業務に資する医薬品に関する情報の整理、周知及び当該周知の状況の確認 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 承認等の医薬品の使用に関し、当該未承認等の医薬品の使用の状況の把握のための体系的な仕組みの構築並びに当該仕組みにより把握した未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討の状況の確認、必要な指導及びこれらの結果の共有 ・担当者の指名の有無（ 有 ） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ，職種 薬剤師 ） （所属： ，職種 ） （所属：薬剤部 ，職種 薬剤師 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ）	

④　医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　　（　有　） ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： ○「富山大学附属病院インフォームド・コンセントに関する要項」に基づき実施している。 ○説明者氏名、患者氏名及び同席者氏名の診療録への記載、質問の回答や患者及び同席者の反応などを、診療録等に記載することについて指導を行っている。	

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ○患者基本情報として、主訴・現病歴の記載。 ○毎日、医師記録、看護記録が記載されている。 ○入院から退院までの診療内容の要点の適切な記載。 ○手術記録の適切な記載。 ○その他のスキャンされた医療文書についての適切な作成。	
⑥　医療安全管理部門の設置状況	有
・所属職員：専従（ 4 ）名、専任（　）名、兼任（ 25 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（　）名、兼任（ 10 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（　）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（　）名、兼任（ 4 ）名 （注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： 1．富山大学附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）に係る事務。 2．事故その他の管理室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認,患者又はその家族への説明，当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導。 3．医療に係る安全管理に係る連絡調整。 4．医療に係る安全確保のための対策の推進。	

5．医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング。（死亡症例に関すること、新規褥瘡に関すること）

6．全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の立案,実施及び認識状況の確認。

7．各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づき，医療安全確保のための業務改善計画書を作成し，それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録。

8．委員会との連携状況，医療安全に係る職員研修の実績,その他の医療安全管理者の活動実績の記録。

9．医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施。

10.その他医療の安全管理に関すること。

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 3 件）、及び許可件数（ 7 件（うち 4 件は令和元年度に申請））

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　有　）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有　）

・活動の主な内容：

〇高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること。

〇高難度新規医療技術が適正に提供されているかどうかを確認すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有　）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 0 件）、及び許可件数（ 0 件）

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（　有　）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有

無（　有　） ・活動の主な内容： 〇未承認新規医薬品等の使用の適否等に関すること。 〇未承認新規医薬品等が適正に使用されているかどうかを確認すること。 ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有　） ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（　有　）
⑨　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況
・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 243 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 93 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 〇重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。 〇医療事故対応の意思決定・報告・公報に関すること。 〇全死亡症例の確認に関すること。
⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況
・他の特定機能病院等への立入り（　有（病院名：金沢大学附属病院　）） ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（　有（病院名：福井大学医学部付属病院　）） ・技術的助言の実施状況 新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、訪問による調査は中止となり、紙面調査のみで行うこととなった。紙面調査シートの内容確認、疑義照会・回答の際に必要に応じて技術的助言を行う形式のところ、特に技術的助言の該当事項はなかった。
⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 〇医療福祉サポートセンターを設置している。

⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況 1. 承認要件に係る講習会 2. 医療安全講習会「レジリエンス・エンジニアリング理論に基づく医療安全への統合的アプローチ：safety-Ⅱ」 3. 医療安全講習会「サイバー犯罪防止の取り組みについて」 4. 医療安全講習会「各部署の医療安全活動報告会」

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 ○管理者　令和 2 年 12 月 10 日　受講済 （公益財団法人　日本医療機能評価機構　「2020 年度　特定機能病院管理者研修」） ○医療安全管理責任者　令和 2 年 11 月 11 日　特定機能病院管理者研修　受講済 （公益財団法人　日本医療機能評価機構　「2020 年度　特定機能病院管理者研修」） ○医薬品安全管理責任者　令和 3 年 1 月 28 日　特定機能病院管理者研修　受講済 （公益財団法人　日本医療機能評価機構　「2020 年度　特定機能病院管理者研修」） ○医療機器安全管理責任者　令和 2 年 11 月 11 日　特定機能病院管理者研修　受講済 （公益財団法人　日本医療機能評価機構　「2020 年度　特定機能病院管理者研修」）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 日本医療機能評価機構により 2019 年 1 月 28 日～30 日　受審 ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 富山大学附属病院 HP の専用ページにて公表予定。

・評価を踏まえ講じた措置

2019 年 8 月 9 日　条件付認定（認定開始日 2019 年 2 月 15 日）

2021 年 6 月 25 日　認定継続（改善審査日 2021 年 5 月 13 日）

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 医療の安全のために必要な資質及び能力に関する基準となっている。 病院を管理運営するうえで必要な資質及び能力に関する基準となっている。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 富山大学ホームページへの掲載

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	特別の関係
北島　勲	富山大学副学長	○	選考会内規第３条第１項第２号基づく役職指定	有・無
足立　雄一	富山大学医学部長		選考会内規第３条第１項第３号に基づき大学院医学薬学研究部(医学)から選出	有・無
戸邉　一之	富山大学		選考会内規第３条第１項第４号に基づき附属病院から選出	有・無
山崎 光章	富山大学		選考会内規第３条第１項第４号に基づき附属病院から選出	有・無
三日市　麻紀子	富山大学		選考会内規第３条第１項第４号に基づき附属病院から選出	有・無
石黒 雄一	富山県厚生部		選考会議内規第３条第１項第５号に基づく学長が委嘱する学外有識者。富山県の医療行政に係る責任者として、保健・医療・福祉全般に豊富な知見を有しているため	有・無
馬瀬 大助	公益社団法人 富山県医師会長		選考会議内規第３条第１項第５号に基づく学長が委嘱する学外有識者。富山県医師会長として，県内の地域医療，社会保障医療全般に豊富な知見を有しているため	有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無

・合議体の主要な審議内容
　病院の運営方針に関する重要事項、病院の予算及び収支状況、職員の人事案件、医療安全に係る重要事項、諸規則の改正等

・審議の概要の従業者への周知状況
　富山大学附属病院連絡会議において周知している。

・合議体に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ）
・公表の方法
　富山大学ホームページへの掲載

・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・(無) ）

合議体の委員名簿

氏名	委員長 （○を付す）	職種	役職
林　篤志	○	医師	病院長
関根　道和		医師	医学部長
酒井　秀紀		薬剤師	薬学部長
早川　芳弘		薬剤師	和漢医薬学総合研究所長
戸邉　一之		医師	糖尿病代謝･内分泌内科長
絹川　弘一郎		医師	循環器内科長
安田　一朗		医師	消化器内科長
佐藤　勉		医師	血液内科長
清水　忠道		医師	皮膚科長
足立　雄一		医師	小児科長
鈴木　道雄		医師	神経精神科長
野口　京		医師	放射線診断科長
齋藤　淳一		医師	放射線治療科長
深原　一晃		医師	心臓血管外科長
芳村　直樹		医師	小児循環器外科長
藤井　努		医師	消化器外科長
松井　恒志		医師	乳腺科・内分泌外科長
吉岡　伊作		医師	小児外科長
黒田　敏		医師	脳神経外科長
秋岡　直樹		医師	脳血管内治療科長
赤井　卓也		医師	小児神経外科長

川口　善治		医師	整形外科長
中島　彰俊		医師	産科婦人科長
將積　日出夫		医師	耳鼻咽喉科長
北村　寛		医師	泌尿器科長
佐武　利彦		医師	形成再建外科･美容外科長
山崎　光章		医師	麻酔科長
野口　誠		医師	歯科口腔外科長
貝沼　茂三郎		医師	和漢診療科長
中辻　裕司		医師	脳神経内科長
山本　善裕		医師	感染症科長
若杉　雅浩		医師	救急科長
服部　憲明		医師	リハビリテーション科長
仁井見　英樹		医師	検査・輸血細胞治療部長
髙岡　裕		医師	医療情報・経営戦略部長
吉田　丈俊		医師	周産母子センター長
井村　穣二		医師	病理部長
林　龍二		医師	臨床腫瘍部長
長島　久		医師	医療の質・安全推進部長
加藤　敦		薬剤師	薬剤部長
丸池　小百合		看護師	看護部長
川崎　宏		事務	病院事務部長
中條　大輔		医師	臨床研究管理センター特命教授
寺元　剛		医師	臨床研究管理センター特命教授

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・　公表の方法 　富山大学ホームページへの掲載 ・　規程の主な内容 　管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容となっている。 ・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 副病院長　８名：経営，医療の質，診療・薬事，教育，研究，医療安全，看護，広報，事務 病院長補佐　９名：経営，診療，薬事，教育，医療安全，小児医療，精神医療，脳卒中センター，総合がんセンター ・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 国立大学附属病院長会議主催の「医師の働き方改革緊急セミナー(病院長塾の代替）」へ参加

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	㊒・無

・監査委員会の開催状況：年 2 回

・活動の主な内容：

〇医療安全管理責任者、医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて確認を行う。

〇学長又は病院長に対し、必要に応じて医療に係る安全管理についての是正措置を講じる。

〇実施結果を公表する。

監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ㊒・無 ）

・委員名簿の公表の有無（ ㊒・無 ）

・委員の選定理由の公表の有無（ ㊒・無 ）

・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ ㊒・無 ）

・公表の方法：

〇本学のホームページで公表

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
森岡　浩一	福井大学医学部附属病院	〇	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・㊥	1
木下　実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・㊥	1
村田 美代子	富山県立大学看護学部		医療を受ける者	有・㊥	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1．医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者

2．医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）

3．その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 国立大学法人富山大学コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス委員会を年２回程度開催しており、「役職員のためのコンプライアンスの手引き」の策定・啓蒙や、コンプライアンスに関する研修会の企画・立案を行っている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 富山大学ホームページへの掲載

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人富山大学役員会を設置し、附属病院の教員人事、予算について審議を行う等病院の運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（　年25回　） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ (有)・無　）（　年24回　） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無　） ・ 公表の方法 富山大学ホームページ掲載
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：
会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 （○を付す）	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ 有・無 ） ・通報件数（年 0 件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ 有・無 ） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ 有・無 ） ・周知の方法 医療安全講習会で周知している。また、全職員に配布済みの「医療安全・感染対策マニュアル（ポケット版）P63 に掲載し、職員に対し周知させている。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	(有)・無
・情報発信の方法、内容等の概要 院内情報誌である「かわら版」を定期的に発行し、患者様のみならず、関連する地域の関連病院へ配布し、本院で実施している先進的な医療等の情報を常に発信している。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 痛みセンター、がんゲノム医療推進センター、乳がん先端治療・乳房再建センター、総合がんセンターが設置され、診療科をまたいで横断的に治療を行っている。	

(様式第 9)

富大病総第　１９３　号
令和３年　１０月　７日
厚生労働大臣　　殿
国立大学法人富山大学長
開設者名　齋藤　滋

国立大学法人富山大学附属病院に関する変更について

標記について、医療法施行令（昭和 23 年政令第 326 号）第 4 条の 3 の規定に基づき、以下のとおり変更があったので届け出ます。

名　　称　国立大学法人富山大学附属病院
変更があった事項及びその内容 集中治療室病床数 変更前：8 床 変更後：10 床

(注) 1　必要がある場合は続紙に記載して添付すること。
2　開設者名の記入箇所及び「名称」欄には、変更があった場合は、変更後のものを記入すること。
3 「変更があった事項及びその内容」欄には、変更があった事項を明らかにした上で、その事項についての変更のみを、変更前と変更後の内容を区別して下記により記入すること。
①　開設者の氏名及び名称の変更については、変更前のもののみを記載することとしても差支えない。
②　診療科名の変更の場合は、医療法施行規則第 6 条の 4 に掲げる診療科名をそれ以外の診療科名よりも先に記入し、削除又は追加された診療科名に下線を付すこと。
③　集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室の構造設備の変更については、承認申請書に記載することとされている事項に係る変更のみを変更前と変更後のそれぞれを区別して記入すること。なお、集中治療室、無菌病室等又は医薬品情報管理室を有しなくなった場合にはその旨を記載し、固定式の無菌病室や専用の医薬品情報管理室を新たに設けたなどの場合には承認申請書に記載することとされているものと同じ事項について記入すること。
(記載例：50 床増床し、集中治療室にペースメーカーを導入した場合)
病床数
変更前：550 床
変更後：600 床
集中治療室に備える機器
変更前：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置
変更後：人工呼吸装置、心電計、心細動除去装置、ペースメーカー

別紙1

令和２年度 富山大学附属病院専門研修プログラム登録名簿

	プログラム名	研修期間	氏名	診療科	出身大学	初期臨床研修病院
1	富山大学地域連携型内科専門医研修プログラム	３年	[redacted]	第一内科	[redacted]	[redacted]
2				第一内科		
3				第一内科		
4				第一内科		
5				第一内科		
6				第二内科		
7				第二内科		
8				第二内科		
9				第三内科		
10				第三内科		
11				第三内科		
12				脳神経内科		
13				脳神経内科		
14				感染症科		
15	精神科専門医研修プログラム	３年		神経精神科		
16				神経精神科		
17	小児科専門研修プログラム	３年		小児科		
18				小児科		
19				小児科		
20	皮膚科研修プログラム	５年		皮膚科		
21				皮膚科		
22	外科専門研修プログラム	３年		第一外科		
23				第一外科		
24				第二外科		
25				第二外科		
26				第二外科		
27				第二外科		
28				第二外科		
29				第二外科		
30	富山大学産婦人科研修プログラム	３年		産科婦人科		
31				産科婦人科		
32				産科婦人科		
33				産科婦人科		
34				産科婦人科		
35				産科婦人科		
36	眼科専門医研修プログラム	４年		眼科		
37	耳鼻咽喉科専門研修プログラム	４年		耳鼻咽喉科		
38	泌尿器科専門医研修プログラム	４年		泌尿器科		
39	麻酔科専門医研修プログラム	４年		麻酔科		
40				麻酔科		
41				麻酔科		
42				麻酔科		
43				麻酔科		
44				麻酔科		
45	富山県連携救急科専門医育成プログラム	３年		救急科		
46	とやま総合診療専攻研修プログラム	３年		総合診療部		
47				総合診療部		
48				総合診療部		
49				総合診療部		
50	歯科			歯科口腔外科		